

「チヂミザサの探究 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

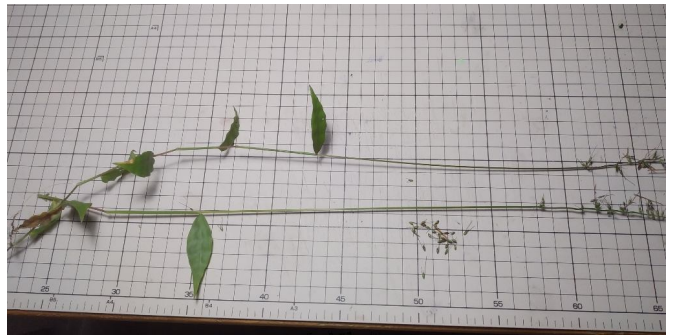
田中 千尋 Chihiro Tanaka



チヂミザサ (縮笹) の葉は、笹のような形状で、縮れていることからこの名がある。「ササ」と名乗ってはいるが、ササの仲間 (イネ科ササ亜科) ではなく、イネ科の「キビ亜科」に属する。単に葉の形状が笹に似ているというだけの名称だ。



チヂミザサの種子 (小穂) が、とにかく服によくつく。特によく繁茂した群落の中を歩くと、ズボンや靴下全体にびっしりついてしまう。トゲの先端が鉤 (かぎ) のように曲がっていて、マジックテープのようにくっつく「オナモミ」などの「ひっつき虫」は、簡単に取り除くことができる。しかし、チヂミザサのトゲには、鉤のような構造はなく、まっすぐに見える。



これが一株のチヂミザサの全体像である。秋の今の時期、葉はほとんどなく、長い穂の先端に種子だけがついている。高さは 50cm にもなる。これは、動物 (イノシシやキツネ) の地面からの高さに近い。



チヂミザサのような強烈な「ひっつき虫型種子」の一つに「[アメリカセンダングサ](#)」がある。写真のように 2 本の「角」を持っているが、一見これだけで布やくっつけるようには見えない。



しかし、「角」の先端を顕微鏡で見るとビックリする。刺さる方向とは逆向きに、透明なトゲがたくさんついている。これなら、一回刺さったら、簡単には抜けないとわかる。私は 6 年の理科の授業でこのトゲを顕微鏡で観察させたが、「うわー!」「怖いー!」と皆驚きの声をあげていた。